

プログラム名	魔法のめがねで遊ぼう						
対象年齢	年中・年長 (4～6歳)						
ねらい	メッセージ	・人間には見えない世界があることに気づこう ・さまざまな自然物を大切にすること					
	発見・体感できること	・ルーペでみる自然物の不思議さ、美しさ					
参加者のめやす	幼児 2～40人		/		支援者 2人		
実施時間	30分						
フィールド							
	森・社寺林・公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園	
実施可能時期							
自然を感じるためのヒント							
時間	活動			配慮・アドバイス アレンジ			
2分	施設の管理センターなどのスペースでグループに分かれる			メッセンジャー（妖精など）を登場させることで、プログラムにストーリー性を出し、子どもたちの興味を引き出します。			
5分	散策コースを歩く						
2分	メッセンジャーが登場し、魔法のめがねをわたされる			メッセンジャーからの話の内容 （ルーペの説明と観察するものの提示） （例）・魔法のめがねの説明 ・魔法のめがねで見つけるもののこと 冬いちご、苔、うらじろ 「この3つは必ず見つける」 などの約束をする。			
				メッセンジャーを登場させず、日常から子どもたちが親しんでいる園独自のキャラクターからの手紙が届いたという設定も可能です。また、特にメッセンジャーを設定せずに、支援者がルーペの説明や観察するものを提示するだけでもよいでしょう。			

妖精との
出会い

時間	活動	配慮・アドバイス アレンジ
5分 5分 3分 3分 5分	<p>歩きながら、観察するものをさがす(ポケットに入る程度のもの)</p> <p>みんなで集めてきたものを広げてルーペで観察する</p> <p>集めたものの親さがし(おうちさがし)をする 落ち葉 葉がついていた木</p> <p>ゴールへ到着する (メッセージャーが待っている)</p> <p>発見したもの、さがしたのについてメッセージャーに伝える</p> <p>メッセージャーから「自然の中ではどんなものでも生きている」というメッセージをきく</p>	<p>観察だけにとどまらず、支援者は子どもたちの様子を見ながら、自然物を大切にすることを訴えかける工夫をしましょう。メッセージャーにメッセージを託すのもよいでしょう。</p> <p>ルーペ(虫眼鏡)</p>  <p>メッセージャーを登場させない場合は、みんなでどんな発見ができたか発表し、分かち合いましょう。</p>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>= 発達段階に応じたルーペの使い方 =</p> <p>年少：さまざまなものを見ることによって、ルーペの使い方に慣れます。</p> <p>年中：小動物(アリ、ダンゴムシ、テントウムシ)などの具体物を拡大して見るとどう見えるか、ということを知ります。</p> <p>年長：物体の一部やルーペを使わないと見えない形状のもの(苔や木の皮など)を、自ら選んで観察します。</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>園や家庭にあるいろいろなもの(机、床、人の顔など)を虫眼鏡で観察し、自然物との相違点や類似点を見つけてみましょう。</p> <p>アリの目から見た人間はどんなふうに見えるか想像してみましょう。(大きい? 怖い? など) 自然の一員である人間は、他の生き物たちの仲間として自然の中へ入っていくために、どのように行動すればよいか、みんなで話し合ってみましょう。 (例えば、そっと歩く、大声を出さない、動植物を踏まないように気をつけるなど)</p>		
<p>準備物・教材等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーペ(虫眼鏡) ・白布かタオル, 紙 ・妖精の衣装 ・カセットデッキ ・効果音 ・絵カード(探して観察するもの) 	

